



# NPO法人 青山まちづくりネットワーク

■面積・戸数：13.8ha、2,300戸

## 1. 団体の概要

- ①団体の種別：NPO法人
- ②団体全体の予算：年間約100万円（そのうち、まちなみの植栽維持管理などに年間約50万円）。光熱費10万円、施設費50万円、活動費40万円
- ③外部委託：なし
- ④共有地・共有施設  
共有地：なし  
共有施設：青山まちづくり役場（NPO事務所等）
- ⑤管理規約  
地区計画：1991年3月15日認可  
建築協定：1992年8月16日認可  
緑化協定：1992年3月16日認可

## 2. 維持管理活動の概要

### 1) まちなみ形成の時期

大津市青山地区は、滋賀県南部に位置する大規模ニュータウン「飛島グリーンヒル」にある。「飛島グリーンヒル」は、大津市青山地区、松ヶ丘地区、さらに隣接し一体として街区を形成する草津市若草地区から構成される。びわこ文化公園都市の居住区画として飛島建設によって分譲開発され、1980年前後からまちなみが形成された。1991年3月に地区計画が決定され、1992年に良好な住宅地としての環境をより高度に維持増進するため、建築・緑化協定が締結された。

バブル崩壊後、事業者の業績不振により約10年間分譲が中断されたが2000年から分譲が再開され、現在も住宅販売が行われている。

### 2) 活動の開始時期と活動の経緯

分譲が中断された期間は、まちなみを維持しようという住民の意欲により、地区計画や建築緑化協定の遵守、各種ボランティア活動が行われてきた。それら任意団体を支援し、滋賀県内最大規模となった地域住民が主催する「青山夏祭り」の暦年支援などを目的として、「NPO法人青山まちづくりネットワーク」を2007年2月に設立した。構成メンバーは、各種ボランティア団体の中核メンバー、自治会役員経験者、PTA役員経験者などで、地域のまちづくりの活動主体として、また、地域のまちなみ形成を推進する中核的な組織として活動している。

### 3) 現在の活動状況

建築緑化協定委員会が各自治会に設けられており、事前に提出された建築・緑化計画に対して協議を行い、了解後に着工という流れが住民にも定着している。協定遵守状況の見回り活動も定期的を実施し、是正勧告に対して概ねの住宅が素直に従っている。

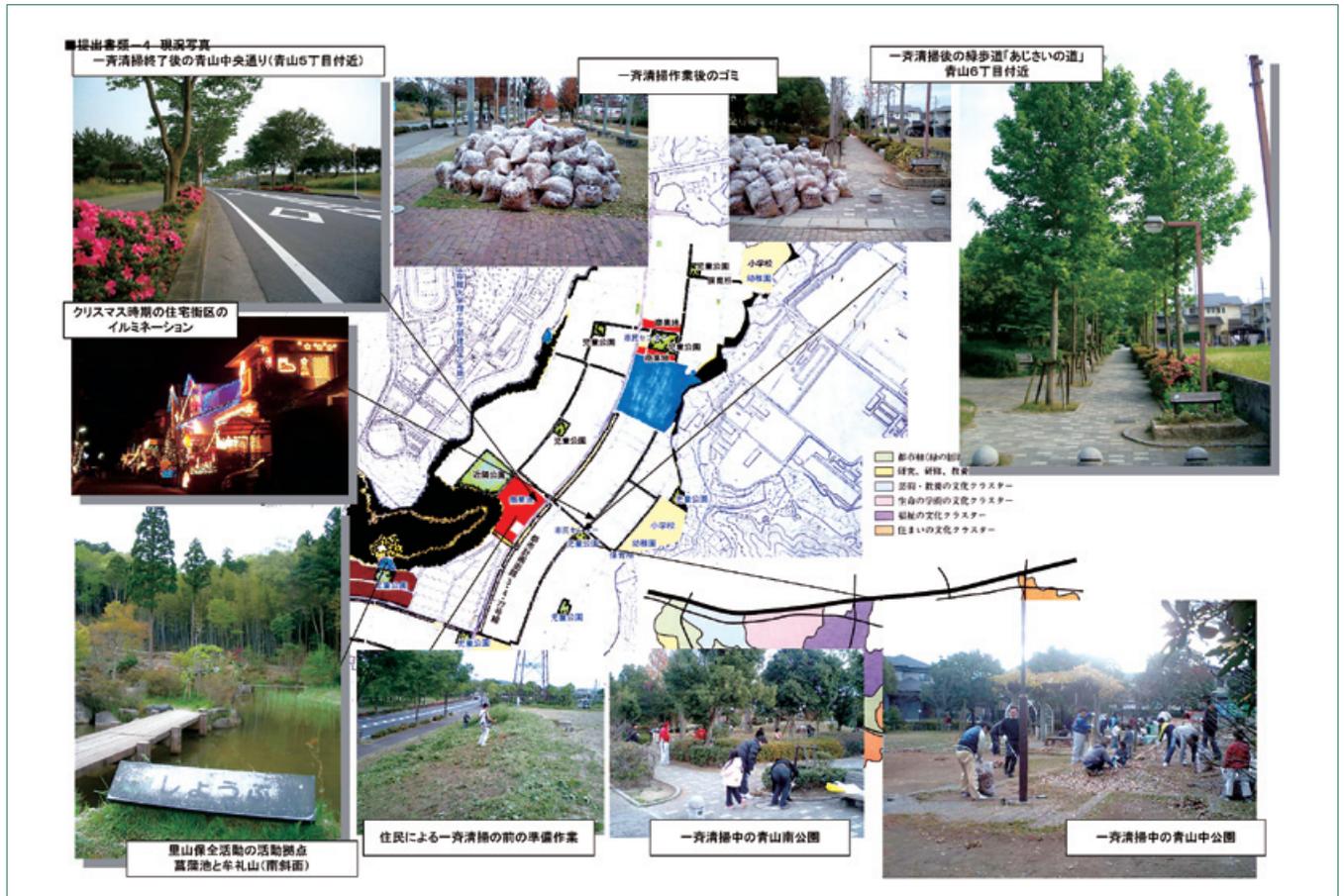
行政サービスによる緑化整備以外に年4回、全住民による一斉清掃を実施（全世帯の98%以上が参加）。重作業や高所高木の伐採などは、地域ボランティア団体が支援している。これ以外にもNPOボランティアメンバーによる月例活動（月4回以上）も実施している。

まちの中央通りに面する緑地帯（総面積約3,800坪）の継続的な占有許可を特例的に受けたことから、同緑地にて「青山市民マーケット」も開催している。50店に上る出店と数千名の来場者があり好評を得た。また、「青山夏祭り」の際に広範囲にわたって「竹燈籠ライトアップ」を実施。廃油を利用したエコろうそくや、立命館大学のボランティアセンターとも協働した。

### 4) 今後の活動方針

定期的な活動に住民が積極的に参加できる仕掛けづくりを考えており、青山夏祭りにおける竹燈籠イベントや、青山市民マーケットの継続開催を計画している。また、青山地区は、滋賀県内では青山ルミナリエと称されるほどクリスマスイルミネーションが盛んであることから、これらの要素を融合し、まちなみを下地にしたライトアップイベントを新たな地域振興イベントとして継続的に開催し、今後は地域の幹線道路や商業ゾーンのまちなみのライトアップも行い、自発的に活動を続けていく機運を盛り上げていきたいと考えている。





(提出図書より一部を抜粋)